

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は 80 問で解答時間は正味 2 時間 20 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) (例 1)、(例 2)の問題では a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)では 1 つ、(例 2)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例 1)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 2)の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1) 101 応招義務を規定しているのはどれか。

- a 刑法
- b 医療法
- c 医師法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

(例 2) 102 医師法で医師の義務とされているのはどれか。2 つ選べ。

- a 守秘義務
- b 応招義務
- c 診療情報の提供
- d 医業従事地の届出
- e 医療提供時の適切な説明

(例 1)の正解は「c」であるから答案用紙の **(c)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
101	(a)	(b)	●	(d)	(e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	→ ●
(d)	(d)
(e)	(e)

(例 2)の正解は「b」と「d」であるから答案用紙の **(b)** と **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
102	(a)	●	(c)	●	(e)

答案用紙②の場合、

102	102
(a)	(a)
(b)	●
(c)	→ (c)
(d)	●
(e)	(e)

(2) 選択肢が6つ以上ある問題については質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査で人口10万人当たりの医師数が最も少ないのはどれか。

- a 北海道
- b 青森県
- c 茨城県
- d 埼玉県
- e 京都府
- f 和歌山県
- g 鳥取県
- h 徳島県
- i 佐賀県
- j 沖縄県

(例3)の正解は「d」であるから答案用紙の **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、		答案用紙②の場合、	
103	(a) (b) (c) (d) (e) (f) (g) (h) (i) (j)	103	(a) (a)
	↓	(b)	(b)
103	(a) (b) (c) (●) (e) (f) (g) (h) (i) (j)	(c)	(c)
		(d)	(●)
		(e)	(e)
		(f)	(f)
		(g)	(g)
		(h)	(h)
		(i)	(i)
		(j)	(j)









- 1 産科 DIC を起こしにくいのはどれか。
  - a 子 癇
  - b 弛緩出血
  - c 羊水塞栓症
  - d 胎盤機能不全
  - e 常位胎盤早期剝離
  
- 2 小児でよくみられる脳腫瘍はどれか。
  - a 膠芽腫
  - b 髓芽腫
  - c 髄膜腫
  - d 下垂体腺腫
  - e 悪性リンパ腫
  
- 3 不眠症の対処として最も適切なのはどれか。
  - a 早寝早起きを心掛ける。
  - b 眠くなくても寢床に入る。
  - c 目が覚めたら日光を浴びる。
  - d 睡眠薬代わりに寝る前に酒を飲む。
  - e 昼寝も含めて1日8時間は睡眠をとる。

- 4 自閉症について誤っているのはどれか。
- a 精神遅滞を伴う。
  - b 感覚過敏を伴う。
  - c 3歳までにはほぼ症状が出そろう。
  - d 言葉の出現と共に意思伝達の障害は改善する。
  - e 日常の習慣が変更されることに強い抵抗を示す。

- 5 眼底出血をきたすのはどれか。
- a 黄斑円孔
  - b 網膜色素変性
  - c 加齢黄斑変性
  - d 中心性漿液性脈絡網膜症
  - e 卵黄状黄斑ジストロフィー

- 6 大動脈弁狭窄症に特徴的なのはどれか。
- a 遅脈
  - b 大脈
  - c 奇脈
  - d 交互脈
  - e 二段脈

7 拡張型心筋症と虚血性心筋症の鑑別に最も有用な検査はどれか。

- a 冠動脈造影
- b 心エコー検査
- c Holter 心電図
- d 安静時心筋血流 SPECT
- e 血漿脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)測定

8 高齢者の高血圧症の特徴はどれか。

- a 拡張期血圧が高い。
- b 血圧の日内変動が小さい。
- c 起立時に血圧が上昇しやすい。
- d 脳血流の自動調節能が低下している。
- e 降圧薬の投与で脳血管障害の発症は減少しない。

9 発赤、腫脹および疼痛が強い肛門周囲膿瘍でまず行うべき対応はどれか。

- a 絶食
- b 硬化療法
- c 切開排膿
- d 痔瘻根治手術
- e 人工肛門造設術

10 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)による活動期消化性潰瘍の治療薬として最も適切なのはどれか。

- a 抗菌薬
- b 制酸薬
- c 抗コリン薬
- d 副腎皮質ステロイド
- e プロトンポンプ阻害薬

11 肝炎をきたすウイルス感染症とその診断に必要な抗体検査の組合せで誤っているのはどれか。

- a A型急性肝炎 ————— IgM型HA抗体
- b B型急性肝炎 ————— HBe抗体
- c C型慢性肝炎 ————— HCV抗体
- d 伝染性単核症 ————— VCA IgM抗体
- e サイトメガロウイルス感染症 ———— CMV IgM抗体

12 二次性赤血球増加症の原因とならないのはどれか。

- a 喫煙
- b 脱水
- c 睡眠時無呼吸症候群
- d 蛋白同化ホルモン薬
- e エリスロポエチン産生腫瘍

13 汎血球減少症を呈する患者の骨髓血塗抹 May-Giemsa 染色標本(別冊No. 1)を別に示す。

この患者にみられる染色体異常はどれか。

- a t(8 ; 14)
- b t(8 ; 21)
- c t(9 ; 22)
- d t(15 ; 17)
- e inv(16)

別 冊 No. 1
--------------

14 T 細胞の腫瘍はどれか。

- a 濾胞性リンパ腫
- b Burkitt リンパ腫
- c MALT リンパ腫
- d hairy cell leukemia〈有毛細胞白血病〉
- e 菌状息肉症

15 感染症と腎病変の組合せで正しいのはどれか。

- a HIV 感染症 ————— 紫斑病性腎炎
- b C 型慢性肝炎 ————— 慢性間質性腎炎
- c 緑膿菌感染症 ————— IgA 腎症
- d 溶連菌感染症 ————— 巣状分節性糸球体硬化症
- e 腸管出血性大腸菌感染症 ————— 溶血性尿毒症症候群

16 右尿管結石症の腹部単純エックス線写真(別冊No. 2)を別に示す。

この結石の成分として最も考えられるのはどれか。

- a 尿酸
- b シスチン
- c キサンチン
- d シュウ酸カルシウム
- e リン酸アンモニウム・マグネシウム

別冊

No. 2

17 手の模式図(別冊No. 3 ①～⑤)を別に示す。

肘部管症候群でみられる代表的な感覚低下部位はどれか。

ただし、斜線部は感覚低下部位を示す。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

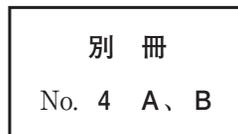
別冊

No. 3 ①～⑤

18 男児の左肘のエックス線写真(別冊No. 4A、B)を別に示す。

診断として正しいのはどれか。

- a 肘関節脱臼骨折
- b Monteggia 骨折
- c 上腕骨顆上骨折
- d 上腕骨外側顆骨折
- e 上腕骨遠位骨端離開



19 両側乳房の腫大が認められる7歳の女児に対して、診断のためまず行うべき検査はどれか。

- a 頭部MRI
- b 血中hCG測定
- c 腹部超音波検査
- d 手エックス線撮影
- e 血中プロラクチン測定

20 躁状態の患者の発言と考えられるのはどれか。

- a 「夜なかなか寝つけません」
- b 「夜中に何度も目が覚めます」
- c 「寝ていると金縛りにあいます」
- d 「夜は眠らなくても大丈夫です」
- e 「脚がむずむずしてよく眠れません」

21 疾患と病態の組合せで正しいのはどれか。

- a 強皮症 ————— ネフローゼ症候群
- b 混合性結合組織病 ——— 肺高血圧症
- c Sjögren 症候群 ————— 肺門リンパ節腫脹
- d 線維筋痛症 ————— 肺胞出血
- e 皮膚筋炎 ————— 高血圧緊急症

22 流行性角結膜炎について正しいのはどれか。

- a エンテロウイルスが原因である。
- b 潜伏期は1～2日である。
- c 膿性眼脂が特徴である。
- d 角膜上皮混濁を生じる。
- e プロスタグランジン関連薬の点眼治療を行う。

23 B型慢性肝炎においてB型肝炎ウイルスの増殖を抑制するのはどれか。

- a ラミブジン
- b リツキシマブ
- c 副腎皮質ステロイド
- d 分岐鎖アミノ酸製剤
- e ウルソデオキシコール酸

- 24 未治療の結核性髄膜炎患者の脳脊髄液所見として当てはまるのはどれか。  
ただし、血糖値は 98 mg/dl である。

	糖 (mg/dl)	蛋白 (mg/dl)	細胞数 (/mm <sup>3</sup> )	単核球数 (/mm <sup>3</sup> )
基準	50~75	15~45	0~2	0~2
a	4	380	3,580	325
b	10	284	680	510
c	58	68	86	86
d	62	98	238	215
e	68	34	2	2

- 25 連鎖球菌感染症はどれか。

- a 丹毒
- b 皮膚腺病
- c 掌蹠膿疱症
- d 膿疱性乾癬
- e Celsus 禿瘡

- 26 マラリアについて正しいのはどれか。

- a マダニが媒介する。
- b 国内での感染例が多い。
- c ワクチンが有効である。
- d 血液中では白血球に感染する。
- e 診断後速やかに保健所に届け出る。

27 飲酒がリスクファクターとならないのはどれか。

- a 咽頭癌
- b 肝 癌
- c 食道癌
- d 大腸癌
- e 膀胱癌

28 職業性腰痛の予防対策として正しいのはどれか。

- a 照明を暗くする。
- b 室温を低めに保つ。
- c 同じ作業を繰り返す。
- d 荷物を軀幹から離して持つ。
- e 腰を下げて荷物を持ち上げる。

29 環境による障害について正しいのはどれか。

- a 深部体温 44℃の熱中症は予後が悪い。
- b 減圧症は旅客機に搭乗することで改善する。
- c 凍傷では壊死部分のマッサージが有効である。
- d 高地脳浮腫では酸素吸入で登山続行が可能となる。
- e 全身被ばく後に下血を伴う急性放射線障害は予後が良い。

30 乳癌の治療薬として適切でないのはどれか。

- a エストロゲン
- b LH-RH アゴニスト
- c アロマターゼ阻害薬
- d 分子標的薬(トラスツズマブ)
- e アントラサイクリン系抗悪性腫瘍薬

31 純音聴力検査の結果(別冊No. 5)を別に示す。

考えられるのはどれか。

- a C<sup>5</sup> dip がみられる。
- b 気導骨導差がみられる。
- c 補充現象が陽性である。
- d めまいを伴うことが多い。
- e 語音明瞭度が著しく障害される。

別 冊

No. 5

32 四肢の脱力と感覚障害とを訴える患者の頸椎 MRI の T2 強調矢状断像(別冊No.

6)を別に示す。

考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a 髄膜腫
- b 神経膠腫
- c 視神経脊髄炎
- d 脊柱管狭窄症
- e 椎間板ヘルニア

別冊 No. 6
-------------

33 急性呼吸促迫症候群について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 肺の線維化をきたさない。
- b 両側肺野の浸潤影を伴う。
- c 肺血管透過性の低下を特徴とする。
- d びまん性肺胞傷害の病理像を呈する。
- e 敗血症が原因であれば予後は良好である。

34 *Helicobacter pylori* 感染が原因となるのはどれか。2つ選べ。

- a 萎縮性胃炎
- b 胃アニサキス症
- c ダンピング症候群
- d 胃 MALT リンパ腫
- e Mallory-Weiss 症候群

35 急性期の虚血性脳血管障害の患者に t-PA〈tissue plasminogen activator〉治療を行う上で聴取すべきことはどれか。2つ選べ。

- a 発症の時刻
- b 最終飲食の時刻
- c 高血圧症の既往
- d 歯科治療の既往
- e 頭蓋内出血の既往

36 新生児壊死性腸炎について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 腹部が膨満する。
- b 人工乳が発症を予防する。
- c 正期産児で発症頻度が高い。
- d 疑った段階で直ちに開腹手術を行う。
- e 腹部エックス線写真で腸管壁の気腫像がみられる。

37 性器クラミジア感染症の男性における合併症はどれか。2つ選べ。

- a 骨盤腹膜炎
- b 間質性膀胱炎
- c 精巣上体炎
- d 前立腺炎
- e 亀頭包皮炎

38 疾患と自己抗体の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 多発性筋炎 ————— 抗ミトコンドリア抗体
- b 関節リウマチ ————— 抗 Sm 抗体
- c 混合性結合組織病 ————— 抗 RNP 抗体
- d 全身性エリテマトーデス〈SLE〉 ————— 抗 Scl-70 抗体
- e Wegener 肉芽腫症  
〈granulomatosis with polyangiitis〉 ————— 抗好中球細胞質抗体〈ANCA〉

39 自己免疫性神経疾患とその治療薬の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 多発性硬化症 ————— 抗 TNF  $\alpha$  抗体
- b 視神経脊髄炎 ————— 副腎皮質ステロイド
- c 重症筋無力症 ————— 抗コリン薬
- d Guillain-Barré 症候群 ————— シクロホスファミド
- e 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎 ————— 免疫グロブリン

40 出生直後の新生児。在胎 42 週 3 日、2,980 g で出生した。生後 1 分で全身チアノーゼを認め、頻呼吸で、口腔内と鼻腔内とを吸引しても顔を全くしかめず泣かない。心拍数 80/分で体動を認めない。羊水は緑色に混濁していた。口腔と鼻腔内から緑色の粘稠な液体を吸引し、酸素吸入を行ったが、児の状態は改善しなかった。直ちに行う処置はどれか。

- a 保温
- b 胃管挿入
- c 胸腔穿刺
- d 気管内吸引
- e 静脈路の確保

41 31歳の3回経妊0回経産婦。妊娠8週。左下肢の疼痛を主訴に来院した。2週間前から悪心と嘔吐とが出現し、十分な食事が摂れていないという。左下肢の腫脹が著明で、右下肢とは左右差を認める。左腓腹部に把握痛がある。血液所見：赤血球440万、Hb 13.5 g/dl、Ht 40%、白血球10,000、血小板25万、Dダイマー5.8  $\mu\text{g/ml}$ (基準1.0以下)。CRP 1.4 mg/dl。下肢静脈超音波カラードプラ法で、左大腿静脈に血流信号を認めない。入院後輸液を開始した。

治療薬として適切なのはどれか。

- a アスピリン
- b ウロキナーゼ
- c ヘパリン
- d 硫酸マグネシウム
- e ワルファリン

42 36歳の2回経妊1回経産婦。妊娠39週5日。陣痛発来のため入院した。妊娠経過は順調であった。入院直後の内診では、分泌物は血性少量で子宮口は3 cm 開大していた。1時間後、突然の気分不快と持続性の腹痛とが出現した。その時の腹部超音波像(別冊No. 7A)と胎児心拍数陣痛図(別冊No. 7B)とを別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 前置胎盤
- b 子宮破裂
- c 羊水塞栓症
- d HELLP 症候群
- e 常位胎盤早期剝離

別冊 No. 7 A、B
-----------------

43 55歳の男性。駅のホームで立ちつくしているところを保護され、遺書を持っていたため、会社の上司に伴われて受診した。2か月前から1日中憂うつで仕事も手につかずに悩んでいたという。「勇気はないので死ねない」、「迷惑をかけるのが嫌なので1人にして欲しい」と帰宅を希望する。

まず行うべき対応はどれか。

- a 1人で帰す。
- b 精神科に入院させる。
- c すぐに警察に連絡する。
- d 抗うつ薬を点滴静注する。
- e 自殺念慮について具体的に尋ねる。

44 10歳の男児。わいせつな言葉を口走ることを主訴に両親に伴われて来院した。5歳ころから瞬目、肩をすくめる、首振り及び咳払いなどの突発的かつ律動的で反復する運動が出現し、軽快と増悪とを繰り返してきた。最近、主訴の症状が出現した。特記すべき既往歴はない。神経学的な所見に異常を認めない。

この患児について正しいのはどれか。

- a 親の過干渉が主な原因である。
- b 異常な運動は睡眠中ほぼ消失する。
- c 置かれた状況による症状の変動は少ない。
- d 成人まで症状が軽快せずに持続することが多い。
- e ごく短時間でも自分で症状を止めることはできない。

45 33歳の男性。発熱と顔面の皮疹とを主訴に来院した。幼少期からアトピー性皮膚炎があり、治療を受けていた。2日前から38℃台の発熱、顔面の紅斑、びらん及び小水疱が出現している。顔面の写真(別冊No. 8A)と水疱内容のTzanck試験のMay-Giemsa染色標本(別冊No. 8B)とを別に示す。

原因として最も考えられるのはどれか。

- a EBウイルス
- b サイトメガロウイルス
- c 単純ヘルペスウイルス
- d 水痘・帯状疱疹ウイルス
- e ヒトパピローマウイルス

別 冊  
No. 8 A、B

46 71歳の女性。全身の皮膚と粘膜のびらんとを主訴に来院した。6日前から腰痛に対して非ステロイド性抗炎症薬を内服している。2日前から結膜充血と両頬粘膜のびらんとが、昨日から全身に紅斑とびらんとが出現した。顔面と体幹の写真(別冊No. 9A、B)を別に示す。

対応として適切でないのはどれか。

- a 輸 液
- b 外用療法
- c 血漿交換療法
- d 副腎皮質ステロイドの投与
- e 同一の非ステロイド性抗炎症薬の継続

別 冊  
No. 9 A、B

47 20歳の男性。右眼の視力不良を主訴に来院した。前眼部、中間透光体および眼底に異常を認めない。眼圧は正常である。右眼の視力検査の結果を示す。

矯正レンズ	視力
+ 0.25 D	0.4
(なし)	0.5
- 0.25 D	0.7
- 0.50 D	1.0
- 0.75 D	1.0
- 1.00 D	1.0
- 1.25 D	1.0

右眼の屈折はどれか。

- a 0.25 D の遠視
- b 正 視
- c 0.50 D の近視
- d 1.00 D の近視
- e 1.25 D の近視

48 24歳の女性。両眼が見えにくいことを主訴に来院した。両眼の前房に炎症細胞を認める。視力は右0.7(矯正不能)、左0.6(矯正不能)。右眼の眼底写真(別冊No. 10A)、蛍光眼底造影写真(別冊No. 10B)及び光干渉断層像(OCT)(別冊No. 10C)を別に示す。左眼も同様の所見である。

この疾患でみられないのはどれか。

- a 難聴
- b 眼底出血
- c 感冒様症状
- d 夕焼け状眼底
- e 脳脊髄液細胞増多

別冊  
No. 10 A、B、C

49 3歳の男児。急性中耳炎に罹患後、聞き返しが多くなった。インピーダンスオーディオメトリの結果(別冊No. 11)を別に示す。

考えられるのはどれか。

- a 鼓膜炎
- b 慢性中耳炎
- c 悪性外耳道炎
- d 滲出性中耳炎
- e 真珠腫性中耳炎

別冊  
No. 11

50 43歳の男性。2日前からの嚥下痛と呼吸困難とを主訴に来院した。含み声だが  
嗄声は認めない。胸部聴診で肺音は正常だが、喘鳴を認める。糖尿病に対し経口血  
糖降下薬を内服している。体温 38.5℃。喉頭内視鏡像(別冊No. 12)を別に示す。

まず行うべき対応はどれか。

- a 胃管挿入
- b 気道確保
- c 切開排膿
- d 自宅での安静指示
- e 副腎皮質ステロイドの吸入

別冊

No. 12

51 75歳の女性。咳嗽を主訴に来院した。3週前から咳、痰、全身倦怠感、食思不  
振および 37℃ 台の微熱が出現し、市販の総合感冒薬で改善しないため受診した。  
胸部エックス線写真で右上肺野に空洞を伴う浸潤影と周囲の結節影とを認めた。喀  
痰の抗酸菌塗抹検査が陽性であったため患者を個室に入院させた。

まず行うのはどれか。

- a 保健所に届け出る。
- b 抗結核薬を投与する。
- c 結核菌の PCR 検査を行う。
- d 患者に N 95 マスクを着用させる。
- e 結核菌特異的全血インターフェロン  $\gamma$  遊離測定法 (IGRA) を行う。

52 22歳の男性。胸部圧迫感を主訴に来院した。1週間前から胸部圧迫感と労作時の息切れとを自覚し、徐々に悪化している。体温37.2℃。脈拍88/分、整。血圧110/72 mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub>96%(room air)。身体所見で左呼吸音の減弱を認める。血液所見：赤血球462万、Hb14.0 g/dl、Ht43%、白血球7,800、血小板35万。血液生化学所見：総ビリルビン0.3 mg/dl、AST23 IU/l、ALT15 IU/l、LD450 IU/l(基準176~353)、ヒト絨毛性ゴナドトロピン〈hCG〉24 mIU/ml。CRP4.8 mg/dl。ツベルクリン反応陽性。胸部エックス線写真(別冊No. 13A)と胸部造影CT(別冊No. 13B)とを別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 胸腺腫
- b 神経鞘腫
- c 胚細胞腫瘍
- d リンパ節結核
- e サルコイドーシス

別冊 No. 13 A、B
------------------

53 64歳の男性。労作時の息切れと左胸痛とを主訴に来院した。20歳からビルなどの解体業に約30年間従事した。3か月前から咳が出現し、次第に労作時の息切れと左胸痛とを自覚するようになったため受診した。身長168 cm、体重62 kg。体温36.9℃。脈拍92/分、整。血圧152/88 mmHg。呼吸数26/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。心音に異常を認めないが、左呼吸音が減弱している。血液所見：赤血球350万、Hb 11.2 g/dl、Ht 34%、白血球8,800、血小板29万。血液生化学所見：総ビリルビン0.3 mg/dl、AST 30 IU/l、ALT 24 IU/l、LD 460 IU/l(基準176~353)。CRP 3.2 mg/dl。胸部CT(別冊No. 14 A)とFDG-PET(別冊No. 14 B)とを別に示す。

この疾患でみられるのはどれか。

- a 胸部の鼓音
- b 閉塞性換気障害
- c 胸水中のブドウ球菌
- d 胸水ヒアルロン酸高値
- e 胸水アデノシンデアミナーゼ(ADA)高値

別冊 No. 14 A、B
------------------

54 2か月の男児。生後まもなく心雑音を指摘され、心エコー検査で右室流出路狭窄、心室中隔欠損および大動脈騎乗を指摘されている。

この患児の治療方針として正しいのはどれか。

- a 肺動脈絞扼術を行う。
- b 根治治療は成人期に行う。
- c プロスタグランディンを投与する。
- d 直ちに心室中隔欠損閉鎖術を行う。
- e 肺動脈の発育後に心内修復術を行う。

55 55歳の男性。胸痛を主訴に来院した。3年前から脂質異常症のため外来通院中である。今朝5時に圧迫感を伴う胸痛を布団の中で自覚したため受診した。胸痛は3分間続いたが受診時には自覚症状はない。脈拍72/分。血圧122/80 mmHg。心音に異常を認めない。心電図検査を実施しようとしたところ急に胸痛が出現したが、ニトログリセリン錠の舌下投与で速やかに消失した。胸痛出現時と消失後の心電図(別冊No. 15A、B)を別に示す。緊急に施行した冠動脈造影では冠動脈の閉塞や有意な狭窄は認められない。

治療薬で適切なのはどれか。

- a  $\alpha$ 遮断薬
- b  $\beta$ 遮断薬
- c カルシウム拮抗薬
- d アンジオテンシン変換酵素阻害薬
- e 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)

別 冊 No. 15 A、B
-------------------

56 51歳の男性。労作時の息苦しさを主訴に来院した。半年前に全身倦怠感と微熱とが出現したため自宅近くの診療所を受診した。外来検査で赤沈亢進、白血球増加および高γグロブリン血症を認め、抗菌薬の投与を受けたが改善しなかった。2か月前から労作時に息苦しさを感ずるようになり、増強してきたため紹介され受診した。脈拍92/分、整。血圧120/80 mmHg。呼吸音に異常を認めない。座位と仰臥位とで心音に異常を認めないが、左側臥位で心尖部に第Ⅱ音の直後に過剰音を聴取する。胸部エックス線写真と心電図とに異常を認めない。

最も考えられるのはどれか。

- a 心膜炎
- b 左房粘液腫
- c 僧帽弁狭窄症
- d 感染性心内膜炎
- e 僧帽弁逸脱症候群

57 58歳の男性。心窩部鈍痛を主訴に来院した。2か月前から時々心窩部に鈍痛があったが、食事との関係は特になかった。既往歴に特記すべきことはない。身体所見に異常を認めない。血液所見：赤血球326万、Hb 11.5 g/dl、Ht 35%、白血球5,200、血小板19万。その他の血液検査で異常を認めない。上部消化管内視鏡像(別冊No. 16)を別に示す。病変部からの内視鏡下生検組織で腺癌と診断された。胸腹部CTで転移を認めない。

治療として適切なのはどれか。

- a 胃切除術
- b 放射線治療
- c レーザー焼灼術
- d ホルモン補充療法
- e 内視鏡的粘膜切除術

別 冊  
No. 16

58 50歳の男性。健康診断の腹部超音波検査で胆嚢内に5mm前後の隆起性病変を2個指摘されたため来院した。既往歴に特記すべきことはない。腹部超音波像(別冊No. 17)を別に示す。

隆起性病変への対応として適切なのはどれか。

- a 胆嚢摘出術を行う。
- b 検査・治療・経過観察は行わない。
- c 腹部超音波検査による経過観察を行う。
- d 内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)を行う。
- e ポジトロンエミッション断層撮影(PET)を行う。

別 冊  
No. 17

59 58歳の女性。褐色尿を主訴に来院した。画像診断で膵頭部癌による閉塞性黄疸と診断されたが、転移巣は描出されなかった。内視鏡的逆行性胆管ドレナージで減黄術を行い、膵頭十二指腸切除術を予定した。手術開腹時に、肝両葉の表面に小結節状の転移巣を5個と、腹膜に同様の結節を十数個認めた。

対応として適切なのはどれか。

- a 非切除
- b 肝部分切除術
- c 膵腫瘍摘出術
- d 肝膵同時切除術
- e 膵頭十二指腸切除術

60 生後15日の新生児。昨夜からの胆汁性嘔吐と血便とを主訴に来院した。上部消化管造影像(別冊No. 18)を別に示す。

この患児について正しいのはどれか。

- a 腹部に腫瘤を触知する。
- b 緊急手術が必要である。
- c 虫垂は右下腹部にある。
- d 下部消化管造影が必要である。
- e 腹部超音波検査で target sign がみられる。

別 冊 No. 18
---------------

61 7歳の男児。右陰囊の腫れを主訴に来院した。ペンライトを用いての診察所見の写真(別冊No. 19)を別に示す。

保護者に対する説明で適切なのはどれか。

- a 「陰囊の中に腸が入り込んでいます」
- b 「自然に治るので心配はありません」
- c 「バンドで鼠径部を圧迫しましょう」
- d 「精巣から戻る血液がうっ滞しています」
- e 「学校の休みに合わせて手術をしましょう」

別 冊 No. 19
---------------

62 68歳の女性。発熱と咳嗽とを主訴に来院した。5日前から発熱、咳および喀痰がみられ、昨日から倦怠感が強くなったため受診した。胸部エックス線写真で両側下肺野に浸潤影を認め、急性肺炎と診断された。入院時、意識は清明。身長158 cm、体重46 kg。体温38.3℃。脈拍88/分、整。血圧108/64 mmHg。呼吸数24/分。SpO<sub>2</sub> 96%(room air)。皮膚と粘膜とに明らかな出血傾向を認めない。両側下肺にcoarse cracklesを聴取する。血液所見：赤血球390万、Hb 11.4 g/dl、Ht 37%、白血球18,000(桿状核好中球8%、分葉核好中球80%、リンパ球12%)、血小板6.3万、PT 68%(基準80~120)、APTT 48秒(基準対照32.2)、フィブリノゲン130 mg/dl(基準200~400)、血清FDP 60 μg/ml(基準10以下)。CRP 21 mg/dl。

抗菌薬の投与とともに行う処置で適切なのはどれか。

- a 気管挿管
- b 血小板輸血
- c 赤血球輸血
- d 抗DIC療法
- e G-CSFの投与

63 54歳の男性。肉眼的血尿を主訴に来院した。2週前と3日前とに肉眼的血尿に気付いた。排尿痛はない。既往歴に特記すべきことはない。喫煙は20本/日を34年間。身長167cm、体重59kg。体温36.4℃。脈拍72/分、整。血圧138/80mmHg。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。直腸指診でクルミ大、弾性軟の前立腺を触知する。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血1+、沈渣に赤血球5~10/1視野、白血球0~2/1視野。尿細胞診クラスII(陰性)。膀胱内視鏡では可動性のある乳頭状の有茎性の腫瘤を認める。膀胱内視鏡像(別冊No. 20)を別に示す。

次に行う対応として適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b 膀胱全摘術
- c 経尿道的切除術
- d BCGの膀胱内注入
- e 抗悪性腫瘍薬の膀胱内注入

別冊 No. 20
--------------

64 15歳の女子。少量の性器出血を主訴に来院した。性器出血は2週前から持続している。13歳の初経以降、月経周期は28~35日である。

現時点で最も考えられるのはどれか。

- a 希発月経
- b 黄体機能不全
- c 機能性子宮出血
- d 子宮内膜増殖症
- e 子宮内膜ポリープ

65 58歳の女性。時々記憶がなくなることが主訴に夫に伴われて来院した。数年前から数秒間口をもぐもぐさせることがあり、夫は気になっていたが本人は全く気付いていなかったという。昨日、娘と買い物に出かけた際に、娘が話しかけても数分間返事をしないことがあった。受診時の意識は清明。身長 158 cm、体重 52 kg。血圧 130/76 mmHg。神経学的診察で異常を認めない。「自分では普通だと思うのですが、夫と娘が私に物忘れがあると言うんですよ」という。受診日に行った頭部単純 MRI で異常所見を認めない。

最も考えられるのはどれか。

- a 不随意運動
- b 逆向性健忘
- c 解離性障害
- d 一過性全健忘
- e 複雑部分発作

66 74歳の女性。右股関節部の運動痛と起立不能とを主訴に来院した。本日、自宅玄関の段差につまずいて転倒し、動けないところを家族が発見し救急外来を受診した。昨日までは手押し車を押して近所まで買い物に行くことが可能であった。意識は清明。右下肢以外の自動運動は可能である。座位では疼痛は少ないが、右股関節を内外旋させると疼痛が強い。支えても立位をとることはできない。四肢反射の亢進はなく、感覚障害を認めない。両股関節エックス線写真(別冊No. 21)を別に示す。

診断はどれか。

- a 恥骨骨折
- b 腸骨骨折
- c 股関節脱臼
- d 大腿骨近位部骨折
- e 大腿骨転子下骨折

別 冊  
No. 21

67 62歳の女性。手のしびれ感を主訴に来院した。8年前から高血圧症のため自宅近くの診療所で治療を受けており、2年前から血糖値の軽度上昇を指摘されていた。ほぼ同時期から両手の第2～4指の先端部に「ピリピリする」感じを自覚し、徐々に増悪してボタンが留めにくくなった。身長165 cm、体重67 kg。脈拍64/分、整。血圧150/86 mmHg。声はこもった低音である。顔と手の写真(別冊No. 22A、B)を別に示す。

確定診断のために測定するホルモンとして最も適切なのはどれか。

- a インスリン
- b コルチゾール
- c プロラクチン
- d アルドステロン
- e インスリン様成長因子-I(IGF-I)



68 25歳の女性。高血圧の精査のため来院した。6か月前に胃腸炎症状で自宅近くの診療所を受診し高血圧を指摘された。3か月前から食欲が亢進し体重が4 kg増加した。身長154 cm、体重64 kg。脈拍76/分、整。血圧156/100 mmHg。顔面は赤ら顔で丸く、痤瘡を認める。尿所見：糖1+。

所見として予想されるのはどれか。

- a 脱 毛
- b 筋肥大
- c 過多月経
- d 発汗過多
- e 伸展性皮膚線条

69 58歳の女性。健康診断で尿糖を指摘され精査のため来院した。母親と姉とが糖尿病で加療中である。身長146 cm、体重44 kg。尿所見：蛋白(±)、糖3+、ケトン体2+。血液生化学所見：随時血糖302 mg/dl、HbA1c (NGSP) 7.8% (基準4.6~6.2)。

現時点での検査として適切でないのはどれか。

- a 眼底検査
- b 尿中アルブミン測定
- c 尿中Cペプチド測定
- d 膵島関連自己抗体測定
- e 経口グルコース負荷試験

70 72歳の5回経妊5回経産婦。数年前から持続する外陰部違和感を主訴に来院した。外陰部の写真(別冊No. 23)を別に示す。

この疾患の症状でないのはどれか。

- a 頻尿
- b 尿失禁
- c 帯下増加
- d 性器出血
- e 鼠径部痛

別冊  
No. 23

71 40歳の女性。皮疹と全身倦怠感を主訴に来院した。3か月前から顔面、両肘および両手に皮疹が出現した。2週前から四肢の脱力、筋肉痛および全身倦怠感を認めた。意識は清明。身長158 cm、体重52 kg。体温37.2℃。脈拍72/分、整。血圧120/84 mmHg。呼吸数28/分。赤沈38 mm/1時間。血液所見：赤血球420万、Hb 11.5 g/dl、Ht 40%、白血球4,700、血小板28万。血液生化学所見：CK 1,404 IU/l(基準30~140)。免疫学所見：CRP 0.4 mg/dl、抗核抗体80倍(基準20以下)。顔面と手の写真(別冊No. 24A、B)を別に示す。

この疾患で注意すべき合併症はどれか。

- a ぶどう膜炎
- b 間質性腎炎
- c 間質性肺炎
- d 虚血性心筋症
- e 自己免疫性肝炎

別冊 No. 24 A、B
------------------

72 28歳の女性。腹痛と下痢とを主訴に来院した。年末の休暇で帰省し、昨日の夕食に貝類を含む多くの魚介類を家族とともに生食した。本日昼ころから、軽度の腹痛を伴う水様下痢が出現し、5、6回排便があったため受診した。母親と妹とが同じ時期から下痢を発症しているが程度は軽い。体温36.8℃。脈拍84/分、整。血圧112/76 mmHg。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。腸雑音は亢進している。血液所見：赤血球440万、Hb 13.5 g/dl、Ht 41%、白血球8,300、血小板18万。血液生化学所見：尿素窒素14 mg/dl、クレアチニン0.7 mg/dl、Na 137 mEq/l、K 3.4 mEq/l、Cl 115 mEq/l。CRP 0.1 mg/dl。

治療として適切なのはどれか。

- a 経口補液
- b 抗菌薬の投与
- c 抗コリン薬の投与
- d 抗ウイルス薬の投与
- e 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)の投与

73 5歳の男児。発熱と咳嗽とを主訴に来院した。3日前から39℃の発熱と強い乾性咳嗽とが出現した。診察中に刺激性の咳嗽が著明であった。肺の聴診で明らかな副雑音は聴取されなかった。血液所見：赤血球436万、Hb 13.8 g/dl、Ht 40%、白血球9,000(桿状核好中球5%、分葉核好中球55%、好酸球3%、単球5%、リンパ球32%)、血小板26万。CRP 3.5 mg/dl。寒冷凝集反応1,024倍(基準128以下)。胸部エックス線写真(別冊No. 25)を別に示す。

確定診断に有用な検査はどれか。

- a 喀痰培養
- b 咽頭培養
- c 血清抗体価
- d ツベルクリン反応
- e 咽頭ぬぐい液迅速検査

別 冊 No. 25
---------------

74 78歳の男性。本日の夕方、風呂から上がった直後から言葉がもつれ、家族に意思がうまく伝えられなくなったため救急外来を受診した。脈拍88/分、不整。血圧120/80 mmHg。意識は清明だが、口数が少なく、「頭は痛いですか」と尋ねると、口ごもるように「い、い」と答え、「さくら」の復唱を指示すると「さ、た」と言う。「目を閉じてから左手を上げてください」と指示すると、間違いなく行う。右口角の動きが不良だが、上下肢の麻痺は明らかではない。頭部MRIを行った。

別に示す頭部MRIの拡散強調像(別冊No. 26 ①～⑤)のうち、この患者の頭部MRIとして考えられるのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊 No. 26 ①～⑤
-------------------

75 70歳の男性。意識障害のため搬入された。冬の寒い日に長時間の停電があり、自宅で発見された時には意識はなく暖房は消えて室内は冷えきっていたという。救急搬送時から救急車内の暖房や保温シートなど表面加温が開始された。搬入時、意識レベルはJCSⅢ-300。腋窩温32.0℃。脈拍60/分、整。血圧92/52 mmHg。呼吸数10/分。SpO<sub>2</sub>88%(リザーバー付マスク10 l/分酸素投与下)。全身の皮膚は冷たく、発汗はない。

まず行うべきなのはどれか。

- a 頭部CT
- b 気管挿管
- c 温浴加温
- d 胸骨圧迫
- e 尿道カテーテル留置

76 72歳の男性。2日前に急性心筋梗塞のため入院し、緊急の経皮的冠動脈インターベンションを受けた。術後の経過は良好であり、今朝は食事を全量摂取した。午前中に冠動脈疾患集中治療室(CCU)から一般病棟に移る予定であった。主治医の回診時、脈拍92/分、整、血圧128/72 mmHg、SpO<sub>2</sub> 98%(room air)であった。主治医と会話中に患者が突然胸部不快感を訴え、その直後に意識を消失した。呼びかけに反応がなく、頸動脈の拍動を触知しない。この時のモニター心電図(別冊No. 27)を別に示す。

直ちに行うべきなのはどれか。2つ選べ。

- a 胸骨圧迫
- b リドカインの静脈内投与
- c 体外式ペースメーカーの留置
- d 電氣的除細動(電気ショック)
- e 緊急冠動脈インターベンション

別冊 No. 27
--------------

77 75歳の男性。歩行時の右下肢痛を主訴に来院した。安静時に痛みはなく、約50m歩行すると右大腿から下腿にかけて痛みが発生する。立ち止まると痛みが軽減し、しゃがむと消失する。右下肢に浮腫を認めない。

診断に有用なのはどれか。2つ選べ。

- a 頭部CT
- b 腰椎MRI
- c 四肢の血圧測定
- d 腹部超音波検査
- e 下肢静脈超音波検査

78 62歳の男性。咳嗽を主訴に来院した。6か月前に腹部造影CTで異常を認めたため右腎摘出術を受けた。術前の胸部CTでは異常を認めなかった。1か月前から時々せき込むことがあり心配になり受診した。心音と呼吸音とに異常を認めない。身長175cm、体重72kg。体温36.5℃。脈拍72/分、整。血圧136/82mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub>97% (room air)。血液所見：赤血球420万、Hb13.4g/dl、Ht41%、白血球7,500、血小板18万。CRP0.1mg/dl。胸部単純CTで両肺に複数の腫瘤陰影を認める。右腎摘出前の腹部造影CT(別冊No. 28)を別に示す。

治療薬として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 抗菌薬
- b 分子標的薬
- c シスプラチン
- d インターフェロン
- e 副腎皮質ステロイド

別冊 No. 28
--------------

79 62歳の女性。歩行時のふらつきを主訴に来院した。4週前にくも膜下出血を発症し、脳動脈瘤に対して開頭動脈瘤クリッピング術を受けた。経過は良好であったが、家族の話では、最近自発性が低下し、トイレの回数が増えているという。意識は清明。歩行は開脚歩行である。頭部単純CTで脳室拡大を認める。

この疾患で認められるのはどれか。2つ選べ。

- a 尿失禁
- b 視野狭窄
- c 瞳孔異常
- d 嚥下障害
- e 認知機能障害

80 健康診断の腹部超音波検査で肝に異常を指摘されたため、精査目的で撮影されたダイナミック CT の動脈相(別冊No. 29A)と後期相(別冊No. 29B)とを別に示す。

①と②の病変の診断で正しいのはどれか。

	①	②
a	肝嚢胞	肝血管腫
b	肝嚢胞	肝細胞癌
c	肝嚢胞	転移性肝癌
d	転移性肝癌	肝血管腫
e	転移性肝癌	肝細胞癌
f	転移性肝癌	肝嚢胞

別冊  
No. 29 A、B



